



2年B組 社会科通信
ふるさとに生きるⅡ
～福島の(に)安心を届けたい!～

2018年
11月12日(月)
第18号
担当:伊倉

届け、我らの思い!

先週末、みんなが開催した模擬店について、多方面から反響がありました。次のようなところから、「記事にしたい!」と問い合わせがありました。

- ・飯舘村役場広報課『広報 いいたて』
- ・(株)第一印刷『ららカフェ』(ノートをくださった会社)
- ・福島民友新聞社(視察に行ったとき、すぐに記事にしてくれた新聞社)
- ・福島県内の新聞社(福島県名古屋事務所に2社から問合せがあったそうです。社名は確認中)

福島県内のマスコミ各社が強い興味を示してくれています。その中で、二つのメールを紹介。

(飯舘村役場の広報課 星様より)
資料をありがとうございました。
夏休みの取材では、役場や飯舘中にもいらしていたとのこと…。
こちらの情報共有が不十分で、申し訳ありませんでした。
資料を拝見して、一福島県民として胸が熱くなりました。
お心を寄せていただき、本当にありがとうございます。
広報掲載へのご協力を、引き続きよろしく願いいたします。

(福島民友新聞社の編集局長さまより)
おはようございます。文化祭の資料、拝受しました。ありがとうございます。マンパワーの不足で当日はうかがうことが出来ませんでした。盛況だったようですね。おめでとうございます。何よりも生徒たちの心意気が文章から伝わってきて、心を打たれました。生徒の皆さんと、そこに理解を示してくれた学校関係者に心より感謝します。
少しのご縁ができた弊社としても、この生徒たちの思いは福島県内の読者に伝えたいと思います。担当の支局長から連絡をさせます。併せて、当日の販売風景などの写真をメールで送っていただけないか、勝手ながらお願いを申し上げます。

いずれのメールにも「一福島県民として胸が熱くなった」「生徒たちの心意気が文章から伝わってきて、心を打たれた」と、みんなの発信に感動してくださっている旨が書かれています。みんなの取組は、福島県民の琴線に触れるものになっているのです。

これは、「まずは身近な人に安心を届ける」ことを目的とした今回の取組が、福島県民を勇気づけるものであることということ。つまりは、身近な人だけでなく、「福島に安心を届ける」という目的をも達成できているとも言えるでしょう。

「600km離れた愛知の中学生が、福島のためにがんばっている」ということを福島の人が知ってくれたら、飯舘中の仲間をはじめ、福島県の方々にとっては、思いのほか大きな力になることと思います。早く記事になってほしいな。